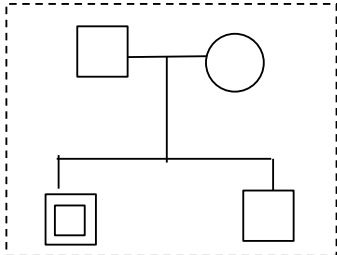


# 相談援助事例

## 中間的就労事例

事例 No. 1	(発達障害の方の社会復帰、居場所作りと社会性の獲得を目的とした就労訓練)				地域	S市	
主な対象者	性別	世帯の特徴	<input type="checkbox"/> 高齢	<input type="checkbox"/> 児童	<input type="checkbox"/> 母子・寡婦	<input type="checkbox"/> 身体障がい	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障がい
	男		<input type="checkbox"/> 精神障がい	<input type="checkbox"/> 外国籍	<input type="checkbox"/> ホームレス		
	年代		<input type="checkbox"/> 虐待	<input type="checkbox"/> DV	<input type="checkbox"/> 引きこもり	<input type="checkbox"/> 病気	<input type="checkbox"/> アルコール依存
	40代		<input type="checkbox"/> 認知症				
	世帯		<input type="checkbox"/> 多重債務	<input type="checkbox"/> 各種滞納	<input type="checkbox"/> 無収入	<input checked="" type="checkbox"/> 不就労	<input type="checkbox"/> 生活保護
両親と同居	<input type="checkbox"/> その他( )						
紹介経路	S市社会福祉協議会						
相談内容	<p>平成●年4月 S市社会福祉協議会より、社会復帰や居場所づくりを目的として、洗濯やシーツ交換の軽作業の中間的就労の依頼。</p> <p>大学卒業後、配達員をしていたが、誤配とか運転の事故が多く、減給勧告を受けて自主退職される。その後、3件ほどアルバイトを行うが、仕事を覚える事ができず、すぐに離職。キャリアカウンセリングで発達障害が判明。就労支援センターの紹介でS市発達障害支援センターに相談、ケースワーカーから社協を通じて高齢者ケアセンター大仙もずの音に中間的就労の依頼。</p>				<p>家族関連図</p>  <pre> graph TD     A[ ] --- B[ ]     A --- C[ ]     B --- D[ ]     C --- E[ ]     style A fill:none,stroke:none     style B fill:none,stroke:none     style C fill:none,stroke:none     style D fill:none,stroke:none     style E fill:none,stroke:none             </pre>		
対応 (相談・支援の内容)	<p>4月7日～週2回 リネン交換の活動開始。職員向けの手順書で本氏に対する支援の統一を図る。一つ一つの作業に対して、丁寧な声掛けを行い、作業が終わるごとに作業確認し、上手にできていたら「助かります」「ありがとうございます」「ご苦労様です」と声掛けを行った。帰られる時には「お疲れ様でした。お茶を飲みませんか?」と声掛けし、一緒にお茶を飲んで談笑する時間をつくった。</p> <p>6月4日 S市社協、発達障害者支援センター、CSW、就労訓練支援員が参加しカンファレンス実施。このまま継続となる。</p> <p>12月1日就労支援継続A型作業所で、週20時間、時給858円で勤務する事になる。ビジネスホテルのベッドメイクの仕事であり、大仙もずの音でのリネン交換が役立ったとの事。</p> <p>中間的就労は終了。</p>						
社会資源の活用	就労支援センター、生活困窮者就労訓練事業所(高齢者ケアセンター大仙もずの音)						
経済的援助	なし。						
連携機関	S市社会福祉協議会、S市発達障害者支援センター、就労支援継続A型作業所、就労訓練支援員、CSWと連携						